

平成 2 7 年

第 1 回仙北市議会定例会  
教 育 行 政 方 針

仙北市教育委員会

平成 2 7 年 2 月 2 4 日

平成 27 年第 1 回仙北市議会定例会の開会にあたり、平成 27 年度の教育行政方針を申し上げます。

#### ◇はじめに

学校教育については、平成 26 年度に引き続き学習指導要領の趣旨を生かし、知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」の育成を目指して参ります。

特に仙北市においては「ふるさとを愛し、豊かな心と健やかな体をもち、確かな学力を身に付けた仙北の子ども」の育成を、就学前教育・小・中学校の共通目標として、取り組んで参ります。

先月、文部科学省から「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引」が示されました。統廃合については、保護者や地域の意見、意向に十分な配慮が必要であることから、平成 27 年度から設置される総合教育会議や教育委員会等で、多方面から慎重に検討して参ります。

また、平成 28 年度から分校として開校を予定している大曲養護学校せんぼく分教室については、県教育委員会等と連携を取りながら、開校に向け最大限の支援と協力を進めて参ります。

生涯学習の推進については、平成 25 年度から 5 カ年の社会教育、生涯学習を推進する指針として策定した、第 2 次社会教育中期計画に基づき、市民一人ひとりが生涯にわたり学習に取り組むことができるよう、学習支援や環境整備の充実に取り組んで参ります。また、中央公民館構想については、公民館活動の一体化を進めながら様々な観点から検討を進めて参ります。

文化財関係については、桜保護管理や重要伝統的建造物群をはじめとする貴重な文化遺産、伝統芸能等を引き継ぎ、後世に伝えていくため、各種の保存事業や継承事業に取り組み、

文化、伝統を基盤とした誇りある市民意識の醸成に努めて参ります。

また、昨年大成功を収めました「第29回国民文化祭・あきた2014」については、その成果と実績を引き継ぎ、国民文化祭を一過性にとどめることなく、事業の継続や次代を担う子どもたちの育成に努めて参ります。

次に各課について申し上げます。

### **【教育総務課】**

子どもたちが一日の大半を過ごす学校は、学習や生活の場であり、豊かな人間性を育む教育環境として重要な施設であります。また、災害時には緊急避難所など、地域の防災拠点としての役割も担っております。子どもたちが快適に過ごすことができる学習環境の提供と、災害時の利用も考慮した各施設の諸工事や維持修繕事業等を、必要性や緊急性を勘案しながら計画的に進めて参ります。

また、昨年実施いたしました小・中学校の屋内体育館等の天井等落下防止対策調査結果を踏まえ、平成27年度は、小学校4校（角館、白岩、神代、桧木内）と中学校3校（角館、生保内、西明寺）の天井等落下防止対策工事を実施し、地震や台風などによる震動、衝撃によって、天井等が脱落しないよう施設の安全対策を進めて参ります。

さらに、遠距離通学児童生徒の利便性と、安全で安心な通学環境を確保するため、引き続きスクールバスの定期的運行を実施して参ります。

### **【教育指導課】**

#### **◇学校教育の充実について**

児童生徒の命を守る防災・安全教育の充実に取り

組むとともに、いじめ・不登校対策、体罰の絶無、学力向上に重点的に取り組み、学校教育のいっそうの充実に努めて参ります。

特に、いじめ・不登校問題、ネットトラブル等の情報モラルを含む生徒指導上の諸問題については、昨年策定いたしました「仙北市いじめ防止等のための基本方針」のもと、その体制整備と施策の充実に努めて参ります。児童・生徒の心の悩みや不安に対し、学校体制での未然防止、早期発見・早期対応に努め、子どもや保護者、市民からの相談に応じる体制強化など、その予防や解決のために、関係機関と連携しながら最重要課題として取り組んで参ります。

また、学力向上については、4月に実施される全国学力・学習状況調査、12月に実施される県の学習状況調査を活用し、市内小・中学校の課題を明確にして、その克服に努めるとともに、ふるさと学習をいっそう推進し、魅力ある学習や教育活動を展開して参ります。

さらに、教育用コンピュータの更新並びに教材整備を計画的に進め、各校の授業改善を支援して参ります。

#### ◇新入学児童・生徒数と複式学級の状況、幼稚園等について

平成27年度の小・中学校の新入学児童・生徒数につきましては、小学校193人（前年度比4人増）、中学校191人（前年度比34人減）が予定されております。

市立幼稚園については、平成27年度から生保内幼稚園と神代幼稚園が幼保連携型認定こども園に移行し、田沢幼稚園は、入園を希望する園児がいないため、休園となる予定です。また、子ども・子育て支援新制度への円滑な移行と、行政窓口の一本化に向けて、子育て支援部局と連携して準備を進めて参ります。

中川小学校では、平成26年度に引き続き、平成27年度

も複式学級が発生する予定であり、市費の複式学級指導支援員を配置し、複式授業の解消に努めて参ります。

### 【北浦教育文化研究所】

県教育庁南教育事務所並びに仙北出張所の指導主事と連携しながら、市内小・中学校の学校訪問を実施し、授業参観、授業研究会の指導助言のほか、市内研修会を開催し、児童生徒の学力向上に向けた授業改善、教職員の資質向上に努めて参ります。

また、不登校適応指導教室（さくら教室）の2人の指導員を中心に、不登校児童生徒への対応や対策、相談活動の充実、併せて市民や児童生徒、保護者からのいじめ事案等の相談体制も充実させて参ります。

小学校外国語活動の授業充実のため、小学校外国語活動指導助手1人の配置を継続し、児童の国際理解と外国語への関心を高める授業を推進して参ります。

なお、各学校の特色ある行事・教育活動を財政的に支援するキャリア・ふるさと教育推進事業の継続と、平成26年度に刊行したふるさと学習資料「ふるさと仙北学」のさらなる活用を図り、ふるさと教育をいっそう推進して参ります。

さらに、毎月発行している教育委員会だよりを引き続き発行し、市内小・中学校、公民館等の特色ある取り組みを中心に広く市民に周知して参ります。

### 【学校給食センター】

学校給食は、学校給食法に基づき学校教育の一環として位置づけ、児童生徒の心身の健全な発達を図ることを目的に、学校との連携を密にしながら実施して参ります。

児童生徒の偏食の矯正、食事マナー、食文化等に関する知識の向上を図るとともに「家庭と共に歩む学校給食」を目指

します。

主食の米飯給食は、全て仙北市産のあきたこまちを提供しておりますが、副食材料についても地場産物や郷土料理などを取り入れ、児童生徒が郷土の自然や文化を大切に作る心を育むよう「地域と結ぶ学校給食」の推進に努めます。

児童生徒が季節行事に関心を持ち、四季の移ろいを体験してもらうため、年間5回の季節行事給食や、小・中学校の最高学年を対象にバイキング給食を実施し、「思い出に残る学校給食」を提供して参ります。

食物アレルギーを持っている児童生徒も、安心して楽しい給食時間を過ごせるよう対応に努め、施設及び設備の整備と衛生管理に万全を尽くし、安全安心な学校給食の提供に努めて参ります。

### **【生涯学習課】**

平成26年度に実施した国民文化祭の全国短歌大会には、国内のみならずブラジルなど、海外からも応募があり、9,298首もの作品が寄せられました。本市の平福百穂記念短歌大会実行委員会等から、国民文化祭を契機に平成27年度も短歌大会を開催して欲しい旨の強い要望があり、国民文化祭の成果を継承すべく、仙北市短歌大会実行委員会が主体となり、継続して参りたいと思います。

また、田沢湖、角館、西木三地区の文化祭の方向性について、各地区文化祭実行委員会代表と意見交換を重ねて参りました。平成27年度は、市制10周年の節目の年であることから、記念事業として仙北市総合文化祭を合同開催することにいたしました。開催場所や時期など、様々な課題はありますが、実行委員会や公民館等と連携を密にし、実施に向けた取り組みを進めて参ります。

また、平成25年度に第1回戸沢サミットが高萩市で開催

された際、開催地を戸沢氏が関係する5市町（高萩市、新庄市、仙北市、雫石町、小美玉市）の輪番とし、平成27年度は、本市が開催地に決定しております。1200年代から400年近くに渡ってこの地を治めた戸沢氏を顕彰し、新たな価値を創造していくことを目指し、8月17日の戸沢氏祭に併せて、第3回戸沢サミットを開催いたします。戸沢氏祭実行委員会や西木町文化財保護協会、北浦史談会などの関係団体と連携し、意義ある大会となるよう積極的に取り組んで参ります。

平成26年度に策定した子ども読書活動推進計画では、アンケート調査結果と幼稚園や保育園、学校等における読書の取り組みなどから現状を把握して、課題を見だし、今後5カ年で取り組む目標を具体的に示しています。子どもが本にふれあうことの重要性を常に意識し、地域、学校、家庭、図書館が連携を取りながら、読書環境の充実に努めて参ります。

### **【公民館】**

公民館には、市民の生涯学習ニーズを的確に捉えた取り組みが求められており、田沢湖・角館・西木の公民館が連携し、それぞれの地区が実施していた講座、教室等を市全体へと拡大して参りました。その結果、多種多様な公民館事業が展開でき、参加人数等の活動実績も大幅に伸び、地域を越えた参加者の交流へと広がりを持つようになってきました。平成27年度もこうした横断的事业を継続するとともに、子どもたちを含めたふるさと教育の推進及び幼稚園や保育園、学校との連携による家庭教育にも取り組んで参ります。

今後も市民の声に耳を傾け、時代の流れを先取りした活発な公民館活動を展開し、市民の生涯学習意欲の喚起に努めて参ります。

また、連携をとって進めている3公民館の事業体制が整い

つつあることから、将来の公民館のあり方、特に中央公民館の設置に向けた検討を継続して参ります。

平成27年度は、地域と歩む公民館活動の充実と生涯学習の推進を図ることを目的に、第65回秋田県公民館大会及び第55回秋田県仙北地域公民館大会が本市を会場に開催されます。全県の公民館活動にかかわる約400人が一堂に集う大きな大会で、本市の公民館活動を全県に発信する最高の機会でもあり、大会の成功に向け関係職員が一体となって取り組んで参ります。

### **【学習資料館・イベント交流館】**

学習資料館では、平成26年度に引き続き、2人の学校図書館支援員を市内小・中学校12校に定期的に派遣し、図書のデータ入力や図書の発注、書架整理など、学校図書館の環境整備を実施して参ります。

また、学校図書の蔵書冊数の増加に努め、子ども読書活動の推進を図るとともに、生涯学習の一環として、多くの市民が様々な本に接し、豊かな読書生活を送ることができるよう学習資料館の充実を図って参ります。

イベント交流館では、平成27年度展示として「高井有一と文化講演会」展、「塩野米松聞き書きに学ぶ」展、「三館合同企画展、平福百穂とアララギ歌人」展等の開催を予定しています。市制10周年を契機に、これまで以上に充実した展示内容を企画して参ります。

### **【市民会館】**

平成26年度は、国民文化祭の三つの主要事業会場となったほか、関連事業の会場としても大いにご利用いただきました。また、当館を会場とするイベントについても、例年開催されている団体のほか、新規の利用も増えつつあります。

施設については、屋根の防水や外壁塗装等の改修工事は終わっていますが、空調や幕等の設備については、老朽化が著しいことから、順次改修を進め、施設を訪れる全ての方々に、安全かつ快適に利用していただけるよう、適切な管理と改修に取り組んで参ります。

また、市民会館自主事業として、好評を得ております自衛隊音楽隊コンサートやロビーコンサート等を引き続き開催し、市民誰もが気軽に足を運んでくれる会館となるよう努めて参ります。

平成26年度に市民会館の利用者の方々から会館に対する提言をいただきました。行政直営であるが故のデメリットのご指摘も受けており、管理運営については、将来の指定管理制度も視野に入れ、より充実した管理・運営体制を検討して参ります。

### **【田沢湖図書館】**

平成25年度に、施設の内・外装の改修工事を行いました。設備の老朽化は否めないことから、適切な維持管理に努め、来館される方々が安全で快適に利用できるよう取り組んで参ります。

蔵書の充実はもとより、定期的にテーマを決めて蔵書を紹介する「テーマ展示」の継続など工夫を重ね、利用する方々へのサービス向上を図って参ります。

また、本の貸し出しのみならず、「お話し会」などを引き続き開催するとともに、幼い頃から本に接する機会を増やすための「読み聞かせ」講座や朗読コンサートなど、図書館の枠にとらわれない様々な事業を企画し、魅力アップに努めて参ります。

### **【文化財課】**

国庫補助事業の伝建群保存地区防災計画につきましては、平成26年度の防災計画策定調査報告や伝建群保存地区保存計画に基づき、同地区の歴史的町並みや武家屋敷の木造建築物、環境物件である景観樹木などを火災や地震等から守るための整備事業として、AからFの6ブロックに分割し実施設計業務を完了いたしました。

平成27年度は、この実施設計に基づき既存施設や消火ポンプ・屋外消火栓、また、新規施設の適正配置・機種選定などを総合的に検討し、Aブロックの石黒家・青柳家周辺から防災施設整備工事を年次計画で実施して参ります。

秋田藩角館郷校「弘道書院」復元につきましては、平成25年度から弘道書院の調査にご協力をいただいている山形大学や秋田県教育庁文化財保護室のご指導をいただき、検討委員会で協議された内容や史料調査、復原図案に基づき調査・試験掘りを行って参りました。結果として、直接的な遺構・遺物に結びつける発見には至らなかったことから、平成27年度は調査・試験掘りの最終年度と位置付け、明治時代の初め旧角館小学校建設の際に、それ以前の建物跡が壊されずに残っている可能性がある箇所を中心に、念入りな調査を実施して参ります。

また、地域の歴史や文化の掘り起こし、保存、継承の重要性が叫ばれる昨今、まだ、あまり知られていない歴史、文化、芸術資源の掘り起こしや復活再生等を目指して、市の地域文化にかかわる基礎資料の作成に引き続き取り組んで参ります。

### **【角館町平福記念美術館】**

平福記念美術館における平成27年度の企画展示計画としては、4月から6月中旬にかけて「平福記念美術館コレクション展」を、7月から8月には「平野庄司作品展」として、美しい秋田の自然と農村風景を中心とした切り絵の作品展を

予定しております。

さらに、平成27年度は角館高等学校創立90年にあたるため、9月から10月上旬には、樺細工伝承館・新潮社記念文学館との三館合同企画として、角館高等学校誘致に尽力した平福百穂と、校歌作成に関わった島木赤彦等のアララギ歌人に関連する展覧会を開催する予定です。

10月中旬から11月は「佐藤元彦日本画展」として、仙北市角館町出身の日本画家で、現在も活躍されている佐藤元彦氏の作品展を予定しております。

また、恒例となりました「児童生徒県南美術展」、「仙北市総合美術展」も開催いたします。

美術館におきましては、今後もより多くの方々から気軽に芸術作品を鑑賞していただけるよう創意工夫に努めて参ります。

以上、平成27年度の教育行政の基本方針及び主要な施策の概要について申し上げましたが、本定例会に提案しております教育関係議案につきまして、慎重ご審議のうえ、ご可決賜りますようお願い申し上げます。